

平成 22 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19402011

研究課題名 (和文) アジア女性の国際移動：家事・介護労働と国際結婚において

研究課題名 (英文) Feminization of migration among Asian women - in cases of domestic workers and cross border marriages

研究代表者

上野 加代子 (UENO KAYOKO)

徳島大学大学院・ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 教授

研究者番号：50213377

研究成果の概要 (和文)：本研究は、アジアの女性に顕著に認められる住み込みの家事・介護労働者としての国際移動および結婚による国際移動を検討した。前者は送り出し国と受け入れ国という 2 国間移動ではなく、移動先が複数の国に発展していく傾向がある。後者では中国から日本への業者を介した結婚の様態を調査した。そして、女性の就労国での住み込み家事・介護労働者から国際結婚への移行についてはシンガポールや台湾で就労していたフィリピン、ベトナム、インドネシア女性へのインタビューから、両者の共通点を明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：This study examined female migration in Asia in the form of both live-in domestic workers and cross border marriages. The trajectories of foreign domestic workers show that she tends to migrate not only to one destination country but also several ones. As for the cross border marriages, we interviewed both marriage agencies as well as those women who got married through agencies, and those who find husband while working in abroad as domestic workers. Those married through agencies and those who changed the status from domestic workers to foreign wives in destination countries revealed the some similarities such as high priority of remittances for the kin left home and expectation of better lives for themselves.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2009 年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
年度			
総計	10,200,000	3,060,000	13,260,000

研究分野：複合領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：アジア 家事労働 国際結婚 女性の移動

1. 研究開始当初の背景

女性が国境をわたる現象は、「移動の女性化」

として近年、社会学、地理学、経済学、ジェンダー論などから広く議論されてきた。女性

の国際移動としてこれまで研究されてきたものは、大きく4つに分けられる。第一は、配偶者や娘などとして、男性の扶養家族の地位で移動する場合である。第二は教育機会を相手国に求めての移動である。とくに近年では英語を母語している米国やカナダやオーストラリアなどへの学歴期の子どもを早期留学に母親が同伴する「教育移民」が議論されている。第三は女性自身の就労目的によるもの、そして第四が国際結婚による他国への移動である。

本研究は、女性の国際移動のなかでも、近年、顕著な社会的事象になっている、女性の就労目的の移動である、家庭内の家事やケアの労働者（以下家事労働者と略）としての移動、ならびに国際結婚による移動を扱った。

2. 研究の目的

ここではまず、本研究がどのような特徴をもち、何を明らかにしようとしたのかについて記しておきたい。

本研究の第1の特徴は「トランスナショナルな移動」という枠組みを採用している点である。国際移動の研究は、そもそもその国に定住しようとするひとたちへの研究からはじまった。そこでは、定住先の社会への統合や同化、その対極にある排除や不適応などが研究の関心であった。それに対して、近年に移民研究で「トランスナショナル」というキーワードで多くの議論がなされているが、新しい国際移動のひとつの特徴は、再度、国に戻り、さらにまた出国するという「行ったり来たり移動」にある。本研究のアジアでの外国人家事労働者の場合も、彼女たちは片道の航空チケットで出国するが、契約期間が終われば、帰国させる義務が雇用者側にあるので、実質的に往復チケットで往來することと同じである。さらに彼女たちは、複数の就労国との間を行き来する場合もある。つまり入国条件、仲介業者に払うエージェンシー費用などとの関係で、より成果が期待される就労国を選択していくのである。したがって、ここでのトランスナショナルとは、たとえば、インドネシアからマレーシア、そしてシンガポールへ、あるいはフィリピンからシンガポール、そして香港へ、といったリージョナル（特定地域内での複数就労国）の移動、ときにはフィリピン出身者が香港やシンガポールからカナダやスペインに渡るなどのクロス・リージョナル（地域間）の移動も含んでいる。いままでの外国人家事労働者の研究は、おもに特定の就労国でのフィールド調査を得意とし、ひとつの国から別の国に移動するパタ

ーンへの関心が希薄であったが、本研究では、アジアの家事労働者の間でかなり一般的であるリージョン内での複数国への移動もみていく。国と国を行き来する女性の移動の軌跡を明らかにし、それを可能にするマイグレーション・ネットワーク、そしてそのような移動で家事労働者として輪郭づけられるアイデンティティなどについて議論する。

次に本研究はジェンダーに焦点を当てる。出生地でない国で暮らしている女性自体は以前から多く、国連の移民統計によると1960年の時点ですでに移民の46.6%が女性であった。ただし、彼女たちのかなりの割合は、亡命であれ、よりよい経済機会を求めての移動であれ、父親や夫の扶養家族であった。彼女たちの生活は、「男性移民とその家族」の枠組みで扱われるか、たとえば家族社会学では海外駐在の家族の適応やストレスといった研究の題材であった。それに対して、近年では、女性自らが労働者として単身で国境を渡る現象が着目されてきた。この傾向は特にアジアに非常に顕著であり、彼女たちの多くが需要の高い家事やケアの労働に従事している。雇用者たちは、自分のキャリア形成などのため、外国人女性に家事やケアを非常に低い賃金でまかせ、家事労働の価値を貶めることになる。そして外国人家事労働者受け入れ政策が国家レベルで実施されることで、結果的に女性が家事労働を担うという構図が制度的にゆるぎないものになっている点を本研究は、受け入れ国と送り出し国の政策、そして個々の雇用者と、家事やケアを担う女性の経験などからみていく。

国際結婚については中国から日本への業者を介した結婚、そして家事労働者という労働移動から国際結婚の移動に移行する女性をみていく。

最後に、そしてアジア地域の住み込み家事労働者への労働移動と結婚移動をつなぐものとして、家事労働のジェンダー化とアジア型福祉社会におけるケアネットワークという観点から考察する。

3. 研究の方法

質問紙による量的調査と、参与観察やインタビューなどの質的調査を実施した。

量的調査としては、シンガポールで外国人家事労働者が滞在するシェルターでの質問紙による調査（有効回答218ケース）を実施し、回答者の基本的な属性に加えて、出稼ぎの理由、エージェンシーへの支払い費用、労働内容や賃金や休日の有無などの労働条件、これまでの出稼ぎ国などを質問した。

質的調査としては、シンガポールを中心に、マレーシア、台湾、香港、タイなどの就労国で家事労働者へのインタビューと参与観察ならびに NGO、政府関係者などへのインタビュー、そして送り出し国であるインドネシア、フィリピン、ミャンマーにおいても住み込み家事労働者の経験者、関連 NGO、関連政府の部局、トレーニングセンターなどにインタビュー調査を実施した。

国際結婚については日本と中国の業者を介した結婚のインタビュー調査に加えて、家事労働者から就労国で結婚に移行したケースについて、シンガポールとインドネシア、台湾で聞き取りをおこなった。

4. 研究成果

主な研究成果は次の点である。

家事労働者たち個人の経験から、彼女たちがどのように就労国を選び、家事労働者になっていくのかを、プッシュ要因とプル要因という古典的な説明要因にくわえて、労働移動を促進する言語、トレーニングセンター、エージェントなどを含むネットワーク、宗教、経験といった媒介的な要因の介在が顕著であった。そして、ひとの移動が急激に促進されているが、より期待される成果が大きい就労国を選ぼうとするときに作用する抑制要因、ならびにどの出身国のどういった女性が家事労働者として入国できるのかの規定など、グローバル化の流れのなかで、国家の関与が近年に強くなってきている点も明らかになった。

つぎにアジアの家事労働者政策が各国でいつ頃、どのような形で出現したのかを検討した。細かな違いはあるが、大まかに言えば、国家の経済成長や国民の中流化だけではなく、家族にケアの責任を担わせる限定的な社会保障施策のなかで、子育てと介護を担当する女性労働者を経済発展が遅れた海外の地域から安価に調達する政策が開始されている、また、働く女性たちからすると、外国人家事労働者の導入施策をとっているアジアリージョンのなかで、たとえばシンガポールでの就労は、より条件の良い香港や台湾への就労につなげるファーストステップとして位置づけられていることが多く、シンガポールがアジアの家事労働者において、キャリア形成の大きな役割を担っていることがわかった。

他方、これらの外国人家事労働者は、家庭という個別化された労働環境ゆえに、外国人建設現場など集団で働くことが多い男性よりも搾取されやすく、組織化されにくい。本

研究では、搾取の様相を送り出し国のトレーニングセンターならびに就労国でのエージェント、そして雇用者家庭といった具体的な場からみていった。そして、それらに対抗する女性たちの抵抗局面を、「弱者の武器」の Scott に依拠して①嘘、②サボタージュ、③着服、④ゴシップ、⑤呪術、⑥脱出の面から検討した。

また、アジア家族の中流化とアジア型家族福祉の二つの潮流は、家事や介護の労働者の家庭内労働者のグローバルな調達によって実現可能となることから、当然、労働輸出国においては彼女たちのライフコースのトランスナショナル化という現象を伴ってきている。Piper たちによって提唱されたトランスナショナル・ライフコース・パースペクティブは、国境を超える人の移動を継続するプロセスとして捉え、ライフステージの役割や地位の移動・非移動に着目する。本研究では、このパースペクティブに依拠し、彼女たちのライフコースを海外就労のパターンと家族形成、役割や地位の連続性・非連続性などに焦点をあて、そして受け入り国・送り出し国の移民労働政策、個人の出身国や学歴などによって規定されるライフコースをいくつかの顕著に観察可能なパターンの接合として提示した。また、就労国だけでなく、自国からも、「遠距離での母親」や「トランスナショナルな母親」という概念で示されるように、育児や他の親族へのケアの期待が相変わらず強ことが浮き上がってきた。そして、彼女たちは、家族のケアニーズが高いときに自国に留まり、ケアが代替可能ときに海外就労するパターンをとりがちであった。親族のケアニーズに常に配慮しなければならないゆえに、女性が自国との関係を緊密に保持し、そして行ったり来たりの移動形態になるのである。

国際結婚においては、一般的に言われているような中国での辺境地域や経済困窮地域から女性が出国しているということよりも、むしろ外国との接触が増えて、外国の情報が入る地域（黒竜江省、ハルピン、方生県、長春市、丹東市、大連市、桂林）にエージェントが集中しており、そこから女性たちが国際結婚相手を探し当てることが明らかになった。またこれらの業者婚を利用する女性に再婚のケースが多かったのも特筆すべきである。

さらに労働移動から結婚移動に移行する女性たちについては、就労国（シンガポール、台湾、タイ、香港）の国籍をもつ男性と結婚する場合は認められたが（とくに台湾で家

事・ケアの労働者として働くベトナム女性)、興味深いのは、外国人男性労働者が多いシンガポールでは、インドネシア女性がバングラディシュやマレーシア出身の建設労働者と親密になり、故郷で結婚・出産し、その後、家事労働者として就労国に戻り、休日に配偶者と会うといったパターンが認められた点である。家事労働者であれ、国際結婚であれ、女性たちにとっての海外滞在の主な動機は送金の継続と、自分の人生を良い方向に変えたいという期待が共通して認められている。

家事ならびにケア労働者の需要いわゆるアジア型福祉における福祉ミックスアジアの経済発展諸国においては、程度の差こそあれ、海外の経済発達が遅れている地域から女性を家事やケアの労働者として安価に調達し、家庭内で就労してもらうという政策が実施されている。この政策は、シンガポール、香港、マレーシア、台湾で顕著に認められ、ここには国家による限定的な福祉政策という状況において、自国の女性を家事・介護負担から解放し、育児負担を軽減することで、女性の就労率と出生率を上げようとする政策意図とつながっているが、その結果、家事労働の価値は非常に低められ、女性の間で大きな分断を作る一因ともなっていることが明らかにされた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

① 洪芳 「業者婚をした中国女性の主体性と葛藤」 落合恵美子編『いま構築されるアジアのジェンダー：人間再生産のグローバルな再編成』査読無、国際日本文化研究センター、2010、pp:181~195

② Kayoko Ueno “Strategies of Resistance among Filipina and Indonesian Domestic Workers in Singapore,” *The Asian and Pacific Migration Journal*, 査読有, Volume 18, issue No. 4, 2009, pp:497-517 .

③ 上野加代子 「家庭内ケア労働者の国際移動」『家族社会学研究』査読無、21 巻 2 号, 2009, pp:195-200

④ 安里和晃 「東アジアにおけるケアの「家族化政策」と外国人家事労働者」『福祉社会学研究』査読無、6, 2009, pp:10-25

⑤ 落合恵美子 「アジアにおけるケアネットワークの再編成——福祉ミックス論との接合」『家族問題研究』査読有、33 巻, 2008, pp:3-20

⑥ 橋本 (関) 泰子 「タイ・バンコクにおける家族と子育て」『世界の児童と母性』査読無、資生堂社会福祉事業財団 63, 2007, pp:27-31

⑦ 安里和晃 「介護従事者として統合される移住労働者と結婚移民—台湾の事例から」『異文化コミュニケーション研究』査読無、神田外語大学異文化コミュニケーション研究所編、第 19 号、2008、pp:43-77

⑧ タンタンアウン 「出稼ぎと農村の変化—モウラミヤイン地区の事例—」『国際問題研究所紀要』査読有、132, 2008, pp:269-281

[学会発表] (計 5 件)

① 上野加代子 「トランスナショナル化するライフコース — アジアの外国人家事労働者の調査から—」日本社会学会 2009 年 10 月 12 日 立教大学

② 洪芳 「結婚によって国際移動をした中国女性の移動要因と人生 — 日本人と結婚した中国女性の調査事例から見る」日本社会学会 2009 年 10 月 12 日 立教大学

③ KAYOKO UENO, DANIELE BELANGER, KHUAT THU HONG, OCHIAI EMIKO . Why do Vietnamese migrant workers ‘run away’ in Japan?: Illegal migration as structurally embedded in source and destination countries, Canadian Council for Southeast Asian Studies conference October 15-18, 2009, University of British Columbia (UBC), Vancouver

④ Kayoko Ueno Strategies of Resistance: Migrant Domestic Workers in Singapore 国際日本文化研究センター・京都大学 GCOE 共催国際シンポジウム “Asian Gender Under Construction: Migrants and Housewives in Global Reconfiguration of Human Reproduction” 国際日本文化研究センター 2009 年 1 月 9 日

⑤ 洪芳 「業者婚をした中国女性の主体性と葛藤」国際日本文化研究センター・京都大学

GCOE 共催国際シンポジウム“Asian Gender Under Construction: Migrants and Housewives in Global Reconfiguration of Human Reproduction” 国際日本文化研究センター 2009年1月8日

〔図書〕(計9件)

①上野加代子『国境を越えるアジアの女性たち』世界思想社、近刊

②上野加代子「ネットワークのなかの家族」宮本みち子・清水新二編『家族生活研究』日本放送出版協会 2008, pp:91-106

③Emiko Ochiai, Researching Gender and Childcare in Contemporary Asia, in Emiko Ochiai and Barbara Molony eds., *Asia's New Mothers: Crafting Gender Roles and Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies*. 2008, Global Oriental, pp: 1-30.

④Emiko Ochiai, The Birth of the Housewife in Contemporary Asia: Globalization and the Modern Family, in Emiko Ochiai and Barbara Molony eds., *Asia's New Mothers: Crafting Gender Roles and Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies*. 2008, Global Oriental, pp: 157-180

⑤Emiko Ochiai et al., Gender Roles and Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies, in Emiko Ochiai and Barbara Molony eds., *Asia's New Mothers: Crafting Gender Roles and Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies*. 2008, Global Oriental, pp: 31-70.

⑥Kayoko Ueno, Foreign Domestic Workers in Singapore, in Emiko Ochiai and Barbara Molony eds., *Asia's New Mothers: Crafting Gender Roles and Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies*, 2008, Global Oriental, pp: 140-156

⑦Hiroko (Seki) Hashimoto, Housewifization and Changes in Women's Life Course in Bangkok, in Emiko Ochiai and Barbara Molony eds., *Asia's New Mothers: Crafting Gender Roles and*

Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies. 2008, Global Oriental, pp: 110-128.

⑧安里和晃「東アジアで就労する家事・介護労働者」奥島美夏編『日本のインドネシア人社会』明石書店、2008 pp.270-288

⑨落合恵美子「グローバル化する家族——台湾の外国人家事労働者と外国人妻」紀平英作編『グローバル化時代の人文学』京都大学出版会 2007, pp: 93-126

〔その他〕

ホームページ等

<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/socio-ueno/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

上野 加代子 (UENO KAYOKO)

徳島大学・ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授

研究者番号：50213377

(2)研究分担者

(3)連携研究者

落合恵美子 (OCHIAI EMIKO)

京都大学文学研究科・教授

研究者番号：90194571

押川文子 (OSHIKAWA FUMIKO)

京都大学地域研究統合情報センター・教授

研究者番号：30280605

関(橋本)泰子 (SEKI YASUKO)

四国学院大学社会学部応用社会学科・教授

研究者番号：80236075

安里和晃 (ASATO WAKO)

京都大学大学院文学研究科・准教授

研究者番号：00465957

(4)研究協力者

洪芳 (HAO HONGFANG)

京都大学大学院文学研究科・修士課程

タンタン アウン (THAN THAN AUNG)

名古屋大学経済学研究科附属国際経済政策研究センター・研究員

